

Title	Mission-Oriented Innovation を実現するための挑戦： 英国 UCL Institute for Innovation and Public Purpose の取組から
Author(s)	村木, 志穂
Citation	年次学術大会講演要旨集, 38: 552-557
Issue Date	2023-10-28
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10119/19149">http://hdl.handle.net/10119/19149</a>
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

# 1 G 2 4

## Mission-Oriented Innovation を実現するための挑戦 —英国 UCL Institute for Innovation and Public Purpose の取組から—

○村木 志穂 (科学技術・学術政策研究所)  
shiho.muraki.21@alumni.ucl.ac.uk

### 1. はじめに

近年、wicked problem、grand challenge とされるような、複雑に絡み合い、簡単には解決できないような、そして、差し迫った大きな問題が山積する社会の中で、mission-oriented、すなわち、ミッション志向型のイノベーションや、それを実現するための政策の重要性への認識が、欧州を中心に高まりつつある。この動向を主導する主要な研究者のひとりが、マリアナ・マツカートである。マツカートは、2013年に出版した *The Entrepreneurial State: debunking public vs. private sector myths* をはじめとし、「イノベーションには方向性があるものであり、目指していくべき方向性にイノベーションを方向付けるとともに、様々なアクターを巻き込みながら市場の創造（修正ではなく）を主導するアクターとして政府の役割を捉えなおすべき」という論を提唱してきた。イギリスの University College London (UCL) にある Institute for Innovation and Public Purpose (IIPP) は、マツカートがこの主張を実際に具現化するための活動を行うために設立した機関である。この機関は、設立の趣旨に特化した形で、社会的インパクトを生み出すための活動、研究活動、教育活動を、連動させながら推進し、大学の機関の立場からミッション志向型のイノベーションの実現に向けた貢献に挑戦してきた。本発表では、2021年夏から2022年夏まで、IIPPの開講する修士課程である Master of Public Administration (MPA) in Innovation, Public Policy and Public Value に在籍（2022年に修了）し、IIPPを内側から観察してきた筆者が、IIPPの挑戦について事例紹介を行う。

### 2. IIPP の概要

IIPPは、イギリスロンドンのUCLの中で、組織上、The Bartlett Faculty of the Built Environment (Bartlett) という学部<sup>1</sup>に属している。Bartlettは、建築、都市デザイン、計画、建設、資源、政策等の様々な領域をカバーする、「人、社会、地球が直面する重大な問題に対する大胆な解決策を見出し、すべての人にとってより良い未来を築くこと」を目指した、学際的な環境構築学<sup>1</sup>の教育・研究を行う学部である (The Bartlett, n.d.)。IIPPはこうした位置づけのもと、「社会課題解決のために、どのように public value が描かれ、実践され、評価されるかを変えること」(IIPP, 2023a, p5、訳は発表者による)をミッションとして設立された。設立のより詳細な趣旨について、マツカートは以下のように述べている(IIPP, 2023a, p4、訳及び下線は発表者による)。

「私たちは、古いゲームルールの適用や単一のセクター・学問によってだけでは、理解することも解決することもできないような、難しく、複雑な、社会経済的・環境的課題に直面している。なぜ現代の資本主義は全員のために機能しないのか？福祉国家の未来はどのようなものか？……私は、こうした間に答えるために、世界は国家の構造やツール、他のアクターとの経済の中におけるパートナーシップに関する考え方を根本から変えるような機関を必要としていると信じ、IIPPを2017年に創設した。これは、国家が他のアクターよりも重要だからではなく、国家が方向付けの主導者であるからである。」

「IIPPは、「方向」について、単に経済成長の速度についてだけ焦点を当てているわけではない。私たちは、パーパスやガバナンスや官民両方の組織の相互関係を再検討し、よりインクルーシブで、イノベーションドリブンで、サステナブルな成長を引き起こすための新しいアプローチを提供する。」

<sup>1</sup>地球温暖化等のいわゆる狭義の環境問題を指す環境ではなく、様々な分野の課題を解決するための方法や体制構築等を含めた広義の「環境」の意味で使われている

「私たちは、時代遅れの理論や実践の問題点を暴き、新しい方法による経済の理解に新しいツールを結びつけることをしているのである。これは、根本的に、**public purpose** を政治経済の分析や実践の中心に置くことであり……IIPP の野望は、**public value** の創出を中心におく世界的なムーブメントを引き起こすことである。Public value を考えるには、公益のために、どのように価値が創られ、共同的に再分配されるかということが必要である。しかし、理論だけでは十分ではない。……実践の場において明らかになったことを、どのように経済は動くのか、あるいは、ゴールに向かうためにどのように形作っていくか等についての私たちの新しい理解につなげていく。これを、私たちは「実践に基づいた理論構築」と呼んでいる。……我々が理論や実践を変えていくことに真剣であるなら、実践することで学ぶことは不可欠なのである。」

IIPP の活動は、このような考え方を反映し、社会的インパクトを生み出すための活動 (policy impact と public engagement)、研究活動、教育活動を相互に関連させる形で行われている(IIPP, 2023a, p5)。

「「実践に基づいた理論構築」は、先駆的な研究から洞察を引き出し、政策に関しては共創を可能にして実行への道筋を設定し、参加型の研究、エンゲージメント、そしてデザインプロセスにより、理論と実践の間のギャップを埋めることを意味する。IIPP を他とは異なるものにするのは、政策立案者とのこの共同作業である。IIPP の研究者は、実践に基づいた理論構築を通じて、単に理論的な立場を提供するだけでなく、実際にこれらの理論を実践に関与させ、実験し、進化させることを通じて政策立案者に新しい理論をもたらす。深く掘り下げることで、私たちは実践から多くのことを学び、そこから得られたものは理論自体にフィードバックされ、最終的には MPA の教育内容にフィードバックされる。」

(Mazzucato et al., 2022.2、訳及び下線は発表者による)

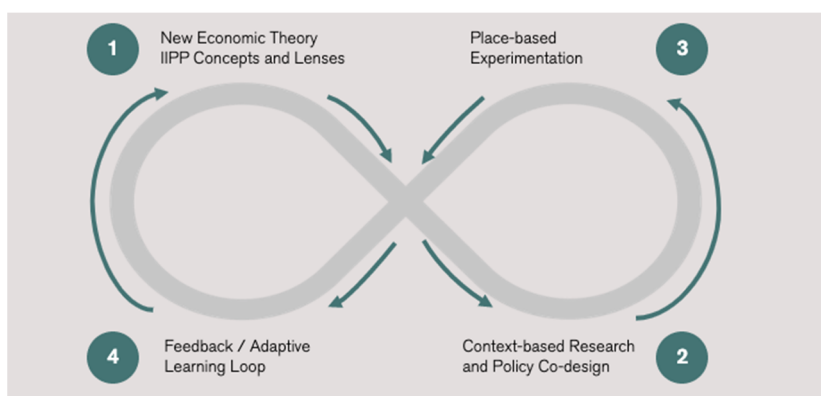


図1 : IIPP の「実践に基づいた理論構築」(Mazzucato et al., 2022.2)

ここからは、この「実践に基づいた理論構築」について、IIPP が実際にどのようなことに取り組んでいるのかを見ていく。

### 3. IIPP の社会的インパクトを生み出すための活動 (policy impact と public engagement)

IIPP の「社会にインパクトを生み出すための活動」は、主に4つの活動に分けられる (IIPP, 2023a)。

- ① 政府機関等の中心にいるリーダーと戦略的に協働し、インクルーシブでサステナブルな社会の実現に寄与する経済成長につなげる活動
- ② IIPP Policy-Lab Studio の枠組みにより、国や地域、自治体等の公務員と実際の政策テーマや施策（例えば公共調達、ファンド、イノベーション政策等）について、一緒に深堀をする活動
- ③ グローバルな Mission-Oriented Innovation Network (MOIN)の枠組みを主催し、市場を単に修正するのではなく創造する際の課題や可能性を、メンバーとなっているミッション志向型の公的組織に共有するとともに、MPA の学生をそうした機関に継続的に教育活動の一部として送り込み寄与させる活動

④ 卒業生や関連機関の組織・人脈により、様々なレベルで公共的な活動に入り込むためのネットワークを構築する活動

ここでは、これらのうち①～③の活動を具体的に紹介する。

① リーダーとの戦略的協働

IIPP は、マツカートをはじめとした IIPP の研究者が政府機関や国際機関のハイレベルなリーダーと、アドバイザーや有識者会議・ネットワークの主要メンバー等として協働し、政策立案過程に初期段階から入り込むことで、インパクトを生み出している。例えば、マツカートは、EU の研究・イノベーション担当のトップのスペシャルアドバイザー（2017 年～2019 年）を務めた期間及びその前後において、Horizon2020 及び Horizon Europe の設計・実施過程において、専門家によるミッション志向型に関する提言をリードするとともに、その具体的な管理・運営・実施の観点でもとりまとめを行い、プログラム設計に寄与した（CRDS, 2021, IIPP, 2023a）。こうしたことが、派生的に様々な場所でミッション志向型の実践につながっている。例えば、Horizon2020 に関連した EU へのアドバイスによる変化が、英国政府の課題志向の産業イノベーション戦略を推進する会議体の設置やスコットランド政府の新しいミッション志向型の国立投資銀行の設立につながった（IIPP, n.d.-1, Mazzucato et al., 2022.2）。この他にも、マツカートのリーダーシップによって IIPP の主要メンバーによる様々なハイレベルなリーダーとの協働が行われている。

② IIPP Policy-Lab Studio における協働的深堀と実践・理論への還元

IIPP は、「壮大なミッションを実務者が具体的にどのように実務に落とし込めばよいかを明らかにする必要がある」という問題意識から、Laudes 財団からの支援を受けて、研究者、政策実践者、公共機関が、喫緊の社会課題にアプローチするための、クリエイティブで実践的かつスケール可能な解決策を共創し、試すためのバーチャルな場として、Policy-Lab Studio を設立している（IIPP, n.d.-2）。ここでは、専門のチームを編成し、関係者が協働的に新しいフレームワークと現実的な解決策の開発と試行をすることで、最終的には政策立案についての知見の収集・フレーミング・分析の新しい形を生み出すことが目指されている（Mazzucato et al., 2022.2）。例えば、①で紹介したスコットランド政府の新国立投資銀行の設立において、IIPP でのこれまでの研究を踏まえつつ、スコットランド政府が掲げる、スマートでインクルーシブな成長のためのビジョンの実現に具体的につなげるための考え方や手法等を IIPP が整理し、ミッション志向型のフレームワークを作成（Mazzucato & Macfarlane, 2019）し、スコットランド国立投資銀行の設立（2020 年）と運営に寄与している。

③ Mission-Oriented Innovation Network (MOIN)を通じた知見共有・学びあいのネットワーク形成

IIPP は、グローバルな公的組織がミッション志向型のイノベーションを進める上での課題や可能性を共有するための枠組みである MOIN を主催している。メンバーは政府省庁、政府銀行、国際機関、戦略デザイン機関、研究イノベーション機関、デジタル機関、自治体、宇宙機関等である。このネットワークは、マツカート(2016)が提唱している The ROAR フレームワーク（図2）の考え方を中心として、様々な活動を実施している。その中で、このフレームワークをはじめとする IIPP・MOIN の知見を集めたリソースガイド（IIPP, 2023b）や、メンバーとなっている機関の事例を集めたケースブック（IIPP,2022）が作成されている。このケースブックでは、ミッションを実践するための参考となるよう、政治的文脈や具体的に実施した方法、直面した課題、実践を通じて明らかになってきたこと等がまとめられている。また、MOIN のメンバー機関のうち一部は、毎年、後述する MPA の学生の Placement（卒業プロジェクト）を受け入れており、学生の成果を MOIN メンバー機関が更に発展させ、MOIN メンバー機関においてミッション志向型のイノベーションを実践するための協働の成果として形になった事例もある<sup>2</sup>。

<sup>2</sup> 例えばデンマークデザインセンターの Missions Playbook (Danish Design Center, n.d.)など

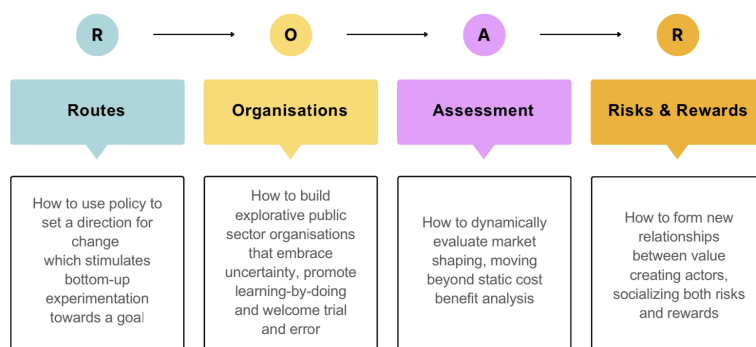


図 2 : The ROAR フレームワーク (IIPP, 2023b)

#### 4. IIPP の研究活動

IIPP の研究活動は、IIPP のミッションをブレイクダウンした際に必要と思われる枠組みや仕組みの開発・創造、及び、その具体化・実践を目的として行われており、それら自身がミッション志向型の研究実践である。IIPP に在籍している研究者の専門性は、経済学、政治学、行政学、デザインの他、IIPP のミッションに合致するような実践等、幅広く (IIPP, n.d.-3)、それらの多様な専門性を持つ研究者により、以下の 4 つの横断的なテーマ (表 1) に沿って、経済、技術、社会の変化の関係性についての研究が行われている。このうち多くは、前段で紹介した社会的インパクトを生み出すための活動と一体的に進められている。

表 1 : IIPP が取り組む 4 つの横断的テーマ

Rethinking Value	既存の価値理論に挑戦し、価値がどのように創造され、共有されうるかを理解するための新たな枠組みを創造する。
Shaping Innovation	社会的課題に取り組むために、科学技術の進歩をどのように舵取りしていくかを検討する。
Transforming Institutions	Public value ドリブンの制度をどのように構築できるかを検討する。
Directing Finance	サステナブルな投資主導型の成長のためのペイシエント (短期的に利益が出なくとも長期的に耐えうる) で戦略的なファイナンスメカニズムの開発について検討する。

IIPP (n.d.-4)より発表者作成

#### 5. IIPP の教育活動

IIPP はその教育活動について、「IIPP のミッションに共鳴し、それを実現するために必要な新しい考え方や動き方を実践する今日及び次世代のリーダーを育成するために行っている」としている (IIPP, 2023a)。プログラムとしては、MPA in Innovation, Public Policy and Public Value、PhD プログラムや短期のエグゼクティブプログラム等が開講されており、このうち、MPA が中心的なプログラムとされている (IIPP, 2023a)。したがって、ここでは MPA について紹介する。

「構造的な変革やイノベーションに焦点をおき、これまでの政策立案に別のアプローチを統合するような大学院課程は他に存在しない」 (IIPP, n.d.-5)と IIPP 自ら標榜するように、IIPP の MPA は特色ある修士課程である。カリキュラムは、経済学、政治学、行政学、デザインの 4 つの領域を主軸として構成され、授業で用いられる文献は、IIPP の研究者又は連携先による著作も多い。必修の授業として、現在は以下の 6 種類が、また、最終学期に取り組むことになる必修の placement (卒業プロジェクト) 又は修士論文がある。Placement では、前述した MOIN の提携機関を中心とした、IIPP とともにミッション志向型の研究・実践活動を推進している機関にグループで配置され、それらの機関に 2~3 か月の間グループで入り込み、実践的な研究活動・発表を行うとともに、個人研究としての短い修士論文を執

筆することとなる。これらに加え、選択授業や任意参加の授業等があり、IIPP とつながりのある行政官やデザイナー等の実務者による講義も多く行われている。

MPA in Innovation, Public Policy and Public Value の必修科目

- ・ New Economic Thinking and Public Value
- ・ Economics of Innovation and Public Purpose
- ・ Politics, Power and System Change
- ・ Making Decisions: Evidence and Evaluation
- ・ Creative Bureaucracies
- ・ Transformation by Design

学生は、ラテンアメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、北米等、世界中から集まっており、出身国の偏りはほとんどない。また、学生は、基本的には、少なくとも3～5年程度以上は社会人経験を持っており、こうした学生の経験からも互いに学びあうことができるような構成となっている(IIPP, 2023a)。さらに、こうした正規の授業等に加え、学生が主体的に企画する勉強会等のイベントも活発に行われている。

## 6. 終わりに

ここまで見てきたように、IIPP はマツカートと、その意志を共にする研究者たちが、ミッション志向型のイノベーションにより社会変革を起こすための理論や具体的な方法を共創するために設立・運営している機関である。その活動の1つ1つに、彼女たちの「ミッションを単なる絵にかいた餅に留めるのではなく、実際に社会を変えていくためのものにしたい。そのために、具体的に何をどのようにすればいいのか、深く当事者として実践にコミットしたい。」という強い意志が表れており、それらが全体として彼女たちの描く構想を特色づけている。

最後に、発表者が出席した2022年修了者の卒業式における、マツカートの言葉を紹介したい。

「私は、あなたたちを（IIPP の構想を実現するためのカリキュラムで）教えることができただけでなく、今後もあなたたちから学び続けられることがとても誇らしい。……私たちに教え続けてください。私たちと共にいてください。ただ卒業生のコミュニティにいただけではなく、私たちと一緒に仕事してください。これからも何年もあなたたちと共にいられることを、とても名誉に感じます。」

(2023年7月7日に実施された卒業式のアーカイブより、発表者訳)

この言葉には、MPA での人材育成を含めて彼女らが目指す構想の一部であり、卒業生や、卒業生がもつ様々なコミュニティと、同志として一緒に仕事をしたいし、卒業生からも学び続けたいという、彼女やIIPP の姿勢が表れている。

マツカートをはじめとしたIIPP の研究者たちの提唱することに説得力があり、彼女たちの主張がEUをはじめとした様々な政策の場に影響力を与えているのは、彼女たちが単なる壮大なビジョンや高尚な理論の提唱者ではなく、それを形にし続け、そしてそこから学び続ける、強い意志と情熱を持った「実践に基づいた理論構築」の実践者であるからではないか。そのリーダーシップの形は、これからの大学・研究機関の在り方を考える上でも、非常に示唆深い。

## 参考文献

- CRDS 研究開発センター(2021). EU の研究・イノベーション枠組みプログラム Horizon Europe. <https://www.jst.go.jp/crds/pdf/2021/OR/CRDS-FY2021-OR-02.pdf>. 2023 年 9 月 18 日取得
- Danish Design Center (n.d.). Mission Playbook: A Design-Driven Approach to Launching and Driving Missions. [https://ddc.dk/wp-content/uploads/2021/10/Missionplaybook\\_A4\\_hojformat.pdf](https://ddc.dk/wp-content/uploads/2021/10/Missionplaybook_A4_hojformat.pdf). . 2023 年 9 月 18 日取得
- Mazzucato, Mariana (2013). *The Entrepreneurial State: debunking public vs. private sector myths*. Anthem Press
- Mazzucato, Mariana (2016). From market fixing to market-creating: a new framework for innovation policy. *Industry and Innovation*, 23(2), 140-156, <https://doi.org/10.1080/13662716.2016.1146124>
- Mazzucato, Mariana & Macfarlane, Laurie (2019). A mission-oriented framework for the Scottish National Investment Bank. [https://www.ucl.ac.uk/bartlett/public-purpose/sites/public-purpose/files/mission-oriented-framework-for-snib\\_final.pdf](https://www.ucl.ac.uk/bartlett/public-purpose/sites/public-purpose/files/mission-oriented-framework-for-snib_final.pdf). 2023 年 9 月 18 日取得
- Mazzucato, Mariana, Kattel, Rainer and Conway, Rowan (2022.2). A little less conversation, a little more action. UCL IIPP blog <https://medium.com/iipp-blog/a-little-less-conversation-a-little-more-action-7641a02953e4>. 2023 年 9 月 18 日取得
- IIPP (2022). Mission-Oriented Innovation in Action 2021 Case Book. [https://www.ucl.ac.uk/bartlett/public-purpose/sites/bartlett\\_public-purpose/files/final\\_moin\\_casebook\\_2021\\_edited\\_2022\\_updated\\_final.pdf](https://www.ucl.ac.uk/bartlett/public-purpose/sites/bartlett_public-purpose/files/final_moin_casebook_2021_edited_2022_updated_final.pdf). 2023 年 9 月 18 日取得
- IIPP (2023a). First 5 Years and Beyond. [https://www.ucl.ac.uk/bartlett/public-purpose/sites/bartlett\\_public-purpose/files/230515\\_iipp\\_impactreport\\_update\\_art\\_digital.pdf](https://www.ucl.ac.uk/bartlett/public-purpose/sites/bartlett_public-purpose/files/230515_iipp_impactreport_update_art_digital.pdf). 2023 年 9 月 18 日取得 (引用については発表者訳)
- IIPP (2023b). MOIN Resource Guide. [https://www.ucl.ac.uk/bartlett/public-purpose/sites/bartlett\\_public-purpose/files/moin\\_resource\\_guide\\_v2.pdf](https://www.ucl.ac.uk/bartlett/public-purpose/sites/bartlett_public-purpose/files/moin_resource_guide_v2.pdf). 2023 年 9 月 18 日取得
- IIPP (n.d.-1). Scottish National Investment Bank. <https://www.ucl.ac.uk/bartlett/public-purpose/research/projects/scottish-national-investment-bank>, 2023 年 9 月 18 日取得
- IIPP (n.d.-2). IIPP Policy Studio. <https://www.ucl.ac.uk/bartlett/public-purpose/iipp-policy-studio>, 2023 年 9 月 18 日取得
- IIPP (n.d.-3). People. <https://www.ucl.ac.uk/bartlett/public-purpose/people>, 2023 年 9 月 18 日取得
- IIPP (n.d.-4). Research, <https://www.ucl.ac.uk/bartlett/public-purpose/research-0>, 2023 年 9 月 18 日取得
- IIPP (n.d.-5). Master of Public Administration (MPA) in Innovation, Public Policy and Public Value, <https://www.ucl.ac.uk/bartlett/public-purpose/study/master-public-administration-mpa-innovation-public-policy-and-public-value>, 2023 年 9 月 18 日取得
- The Bartlett (n.d.). The Bartlett About, <https://www.ucl.ac.uk/bartlett/about-0>, 2023 年 9 月 18 日取得